

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	東アジアコース集中講義科目「Comparative Development Studies」
代表者名	久野秀二(経済学研究科)
事業概要 (600 字程度)	<p>東アジアコース集中講義科目「Comparative Development Studies」を担当してもらう 2 名の研究者 (Dr. Ivan Cucco, Research Fellow, Department of Economics, Management and Institutions, University of Naples “Federico II”, Italy、及び Dr Raymond Jussaume, Jr., Professor and Chair, Department of Sociology, Michigan State University) を招聘した。</p> <p>12 月は Dr Cucco が担当し、イタリアとヨーロッパ諸国の農業・食料事情を事例に取り上げながら、主に経済地理学と農村社会学の視点から、① Sustainable Development、② Space and Scale、③ Knowledge、④ Networks、⑤ Place という5つの概念の理解と研究への適用方法についてインタラクティブな講義が行われた。7名の東アジアコース学生と1名の交換留学生(中国人民大学)、2名の農学研究科学生が、3週間にわたった計5回(各3時間)の講義を受講した。</p> <p>1月は別予算で招聘した Dr Jussaume が担当し、「Sustainable Development」に関する基本的な考え方やアプローチについて、包括的かつ多角的な視点から、1週間5回(各3時間)にわたって講義が行われた。7名の東アジアコース学生と1名の交換留学生(中国人民大学)に加え、タマサート大学とガジャマダ大学からの特別交換留学生8名を含む16名の大学院生が受講した。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>この集中講義科目は2012年度に初めて開講され、毎年2～3名の講師がそれぞれの専門分野(政治学、農業経済学、政治経済学、開発社会学、農村社会学、経済地理学など)の立場から、学際的・国際比較的な視点を交えながら「持続的発展論」や「開発研究」の理論枠組みについてインタラクティブに講義し、参加した東アジアコース学生や特別交換留学生、ポスドク研究者から好評を博してきた。</p> <p>東アジアコースの学生もタマサート大学やガジャマダ大学からの特別交換留学生も、もともと多様な専門分野、多様なバックグラウンド(社会経験)を有する学生が多く、学際的・国際比較的な見方や考え方に慣れているものの、本集中講義を通じて、Sustainability や Development といった課題にアプローチするためには、それらの経済的・社会的・政治的・文化的・生態学的な諸側面、空間・知識・ネットワーク・場所といった地理学的な分析範疇を含む多様な視点や専門性の総合が不可欠であることを学べ、各自の研究にも多くの示唆を得ることができたと思われる。</p>